

Value Report 2022 発行にあたって

— 企業は人の集団である。その中の個人それぞれが「人間愛」を実践すれば、苦楽を共にする運命協同体が形成されるとともに、労使対立のない全員参加の活力ある経営が実現し、企業発展の原動力となる。また、協力工事店あるいは取引先との間に「人間愛」があれば、温かい共存共栄の実が結び、企業基盤の充実がもたらされるであろう。 —

積水ハウスグループの歴史の中で培ってきたコアコンピタンス（技術力・施工力・顧客基盤）は私たちの誇りであり、企業活動の源泉でもあります。

積水ハウスグループは創業以来、常に時代を見据え、先進的な技術の研究・開発、これを実現し会社を支える人財を育成し、お客様や社会のニーズに対応し続けてきました。

「わが家」を世界一幸せな場所にする — 積水ハウスグループのグローバルビジョンは、すべてのステークホルダーの皆様に向けた、未来へ通ずる大きな約束です。このビジョンの具現化のために、積水ハウスグループ一丸となって、持続可能な企業として企業価値向上に努め、「人生100年時代の幸せ」を提供し続けてまいります。

本レポートを発行するにあたり、積水ハウスグループを事業・財務・非財務の視点から語り、ステークホルダーの皆様と対話したい — そんな想いを込めて、本レポートを「Value Report 2022 — Our Engagement」と名づけました。

私たちの想いがステークホルダーの皆様の心に届けば幸いです。

コミュニケーションの全体像



報告対象範囲

積水ハウス株式会社および連結子会社

報告対象期間

2021年2月1日～2022年1月31日

一部内容に当該期間以前・以後の情報も含まれます。

参照ガイドライン

- ・国際統合報告評議会 (IIRC)「国際統合報告フレームワーク」
- ・経済産業省「価値協創ガイダンス」
- ・環境省「環境報告ガイドライン2018年版」
- ・国際標準化機構「ISO26000」(社会的責任に関する国際規格)
- ・「気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD) 最終報告書」

CONTENTS

3	Section 1 価値創造ストーリー
4	事業ポートフォリオ
5	積水ハウス At a Glance
6	企業理念
7	目指す姿
8	積水ハウスグループのビジョン
9	創業から積み上げてきた 積水ハウスのコーポレートストーリー
13	積水ハウスのマテリアリティ
14	積水ハウスのコーポレート ストーリーが創出する 提供価値とマテリアリティ
23	社長メッセージ
27	特集 成長戦略事例
27	事例1 新たな成長を生み出す新規事業 —PLATFORM HOUSE touch—
28	事例2 積水ハウステクノロジーを世界に移植 —米国住宅販売事業—
29	事例3 イノベティブな企業風土を醸成する —創発型表彰制度「SHIP」—
30	Section 2 価値創造の仕組みと原動力
31	価値創造プロセス
32	積水ハウスを取り巻く事業環境と リスク・機会
33	経営資源
35	コアコンピタンス
36	ビジネスモデル解説
37	バリューチェーン
39	ステークホルダーエンゲージメント
41	Section 3 持続的成長への戦略と取り組み
42	財務資本戦略
46	環境戦略
48	人財戦略
50	技術開発戦略
51	積水ハウスのデジタル技術と DXの取り組み

56	Section 4 中期経営計画の推進
57	戦略の変遷と第5次中期経営計画の 位置づけ
58	第5次中期経営計画の進捗
59	事業解説
59	請負型ビジネス
61	ストック型ビジネス
63	開発型ビジネス
65	国際ビジネス
67	Section 5 経営基盤
68	取締役会議長メッセージ
69	コーポレートガバナンス
69	基本的な考え方/ 2019年以降の主な取り組み/ 2021年の取り組み
70	ガバナンス強化の変遷
71	第5次中期経営計画における ガバナンス改革の方向性
72	コーポレートガバナンス体制/ 取締役会の機能、構成の明確化/ 内部統制システム/会計監査人
73	主な組織・会議体制と役割
74	人事・報酬諮問委員会の取り組み
75	スキルマトリックスと各項目の選定理由
76	取締役候補者の選定方針と手続き/ 取締役の選任理由
78	執行役員選任プロセスの高度化
79	役員報酬
81	政策保有株式/ グループガバナンス体制の強化
82	取締役会実効性評価
83	社外取締役対談
87	分譲マンション用地の取引事故に関する 総括検証報告書を受けた取り組み
88	マテリアリティのベースとなる 取り組みに向けたテーマ・KPI
89	役員一覧
92	社外からの主な評価と受賞実績

94	Section 6 ESG経営の実践 —積水ハウスのサステナビリティの取り組み
95	ESG座談会
98	編集方針/ESG経営の推進体制
100	積水ハウスグループにおける ESG経営
101	国際的なイニシアチブへの参画や 行政・業界団体等との活動
102	環境
108-111	TCFD(気候関連財務情報 開示タスクフォース)提言 に沿った情報開示
128	社会
163	ガバナンス
172	Section 7 ファクトデータ
173	環境データ
188	社会データ
191	ガバナンスデータ
192	独立保証報告書
193	10ヵ年ハイライト(連結)
197	財務分析
201	セグメント別売上高・営業利益
202	連結財務諸表
202	連結貸借対照表
203	連結損益計算書/ 連結包括利益計算書
204	連結株主資本等変動計算書
205	連結キャッシュ・フロー計算書
206	会社情報
207	株式情報

編集方針

本レポートは、積水ハウスのコーポレートストーリーを紐解き、マテリアリティ特定のプロセスから積水ハウスグループの企業価値、存在意義をご理解いただくとともに、価値創造プロセスを通じて、積水ハウスグループの目指す姿を明確に示し、事業や取り組みをご理解いただくことを第一の目的に編集しています。

機関投資家・株主をはじめとする、あらゆるステークホルダーの皆様に向けて、豊富なESG情報を網羅するために、従来発行していた「統合報告書」と「サステナビリティレポート」を融合させ、本レポート1つで当社の事業・財務・非財務の視点から企業価値を語るという新たな試みのもと、制作しています。

〈将来の見通しに関する注意事項〉

本レポートにおける業績予測などの将来に関する記述は、制作時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性その他の要因が内包されています。したがって、さまざまな要因の変化により、実際の業績は見通しと大きく異なる可能性があることをご承知おきください。

本レポートの使い方 (WEB版)

ページ間を移動しやすいよう、各ページにナビゲーションボタンを設けています。



CONTENTS

..... 目次に戻ります



..... 前のページに戻ります



..... 次のページに進みます



..... 外部サイトに移動します



» P.XX ... 本レポート内の関連するページに移動します